

課題名 (1) 当院回復期病棟に入院した患者のリハビリテーション効果についてのデータ解析。 (1)–(2) 当院に入院した嚥下障害患者の訓練前後の訓練成果の解析。	
(1) 新規に導入される医療 (2) 保険診療の対象とならない医療 (3) 患者に不利となる可能性のある医療 (4) その他	
研究責任者	岡本一也
研究期間	10年を予定
概要 1. 研究の方法・目的 (1) 当院回復期病棟に入院した患者のリハビリテーションによる治療効果の検証を行なう。理学療法、作業療法、言語療法を行っていた患者データを解析し、当院の訓練成果がどの程度であったかを検証する。カルテからの情報で検討する。 2. 具体的方法 ・回復期リハビリテーション病棟へ入院した患者のリハビリテーションデータを当院カルテから集め後方視的に解析する。当初は1年間の解析を行い、以後年次的に積み重ねてゆく。 3. 個人情報の取り扱い ・個人情報保護に留意し、個人が特定される事のないように抽出する。 ・オプトインは回復期入棟時に説明し、文書で許可もらう。オプトアウトは病院ホームページにて行なう。結果の一部は学会発表を行う。	

4. 倫理的配慮 ・後方視的研究で患者への新たな介入はない。 ・診療に不利益を生じる事はなく、オプトアウトを行えるように配慮している。 ・サブ解析 (1)–(2) 研究の背景と目的 (1)–(2) リハビリテーションを行なっている嚥下障害患者について訓練前後の成果を解析し、今後の訓練改善に取り組む。 特に気管切開と嚥下障害が重複している患者では訓練が難しく、どのような患者であれば気管切開が抜去でき、嚥下訓練が継続できるかはいまだ解決されていない問題で1症例ずつの積み重ねが重要である。このような症例を詳しく解析して今後の訓練へつなげていく。 結果の一部は学会発表を行なう。	
1. 研究方法 嚥下訓練を行なっている患者データを検証し、どの様な訓練を行なって嚥下能力を向上させていくかを検証し、効率的に嚥下能力を回復できる方法を検証する。 また、気管切開患者は嚥下訓練が行ないにくく、どのような気管切開患者が嚥下訓練可能であるか症例を絞って考え、訓練方法の改善点を考察していく。 データ収集方法は本解析と同様にカルテからの情報とし、後方的解析とする。	
2. 個人情報の取り扱い ・個人情報保護に留意し、個人が特定される事のないように注意する。 ・症例報告の場合には患者・家族へ説明し、許可をいただく。 ・上記の許可情報は規定に従ってカルテに記載する。	